

活動レポート

道央技術士委員会

文責：道央技術士委員会幹事長 田中雄太

平成 27 年度 第 1 回 施設見学会

1. はじめに

道央技術士委員会では、恒例の第 1 回施設見学会を 9 月 9 日(水)に実施しました。今回は、J ファーム苫小牧株式会社を見学するとともに、これとあわせて、技術者倫理についての講演会を行いました。参加者数は、施設見学会が 11 名、技術者倫理講習会が 16 名でした。

2. J ファーム苫小牧株式会社

(1)施設の概要

J ファーム苫小牧株式会社では、スマートアグリシステムを導入したプラントで、主にトマトとベビーリーフを栽培しています。スマートアグリシステムとは、高度なシステムにより、植物の生育に必要な温度、湿度、日射量、CO₂、肥料などを制御し、最適な環境を作り出す栽培方法です。

J ファーム苫小牧のプラントでは、オランダ Priva 社が提供する高度栽培環境制御システムと JFE エンジニアリングのガスエンジン・トリジェネレーションシステムおよびバイオマス燃焼ガス浄化システムを導入することで、電気・熱・CO₂ の供給の最適化、環境負荷の軽減を図っています。



図-1 プラント施設概要説明

(2)プラント見学

敷地内の PR センターにて、概要について説明を受けたのち、プラントの見学をしました。残念ながら、温室内での撮影はできませんでしたが、様々な先端技術を見ることができました。土を全く使わないロックウール栽培やベビーリーフの水耕栽培ベッド、高さやスペースの限られたハウス内でトマトの主枝を効率よく伸ばすことが可能なハイワイヤー栽培など、いずれも一般的なハウス栽培で見られるものとは全く異なる技術ばかりでした。



図-2 プラント見学風景



図-3 敷地内で飼育しているウサギ

また、Jファーム苫小牧の方針として、最先端で独自のスマートアグリシステムを導入しつつ、これを広く発信するために、広報活動・見学者の受け入れにも注力している姿勢が印象的でした。

たとえば、見学者用のPRセンターだけではなく、敷地内では、散策路・花壇・ビオトープ池の整備やウサギの飼育など、多くの見学者の来場を意識した施設づくりを進めています(図3参照)。ちなみに、このウサギは、栽培されるベビーリーフのうち、商品として出荷されない茎をエサとして飼育されています。また、衛生上の理由から、ウサギと遊べるのはプラントの見学後に限定しているそうです。



図-4 PRセンター前で記念撮影

3. 技術者倫理講習会

今回の施設見学会では、道央技術士委員会での初めての試みとして、技術者倫理の講習会を企画しました。講師として、北海道本部倫理委員会の今井委員長をお招きして、Jファーム苫小牧の見学後、(株)タナカコンサルタントに移動し講習会を行いました。



図-5 今井委員長のご挨拶

今井委員長は、詳細な資料を準備してくださり、大変わかりやすい講義をしていただきました。講義の内容は、技術者倫理の基本事項の説明から始まり、事例紹介、倫理問題の考え方(解き方)と多岐にわたりました。



図-6 講演資料

また、スペースシャトルチャレンジャー号事故の事例を題材として、参加者によるディスカッションを行いました。担当技術者、技術担当役員、経営者など、それぞれの立場によって事態の捉え方が異なるだけではなく、事情が明らかになるにつれて、さらに考え方が変化する。このような倫理問題に対しては、普遍的な解決策はなく、直面した場合の対応が難しいことを実感する場となりました。



図-7 ディスカッションの様子

4. おわりに

Jファーム苫小牧株式会社の皆さんはとても親切に対応していただきました。また、倫理委員会の今井委員長にも大変お世話になりました。この場を借りてお礼申し上げます。ありがとうございました。